

「港区教育史」第11巻 くらしと教育編のカバーデザインについて (案)

審議事項

くらしと教育編のカバーデザイン3案の中から1案を決定します。

1 考え方 (令和2年度第3回港区教育史編さん委員会決定)

(1) 手に取りやすく、親しみがあるデザイン

これまでの自治体史の堅いイメージではなく、幅広い世代が手に取りやすいデザインであること。また、視認性が高く、目立つデザインであること。

(2) 全巻を通して統一感のあるデザイン

教育史全巻を通して、シリーズと認識できるような統一感を持たせるデザインであること。

(3) 令和の時代にふさわしい、新しい教育史を感じさせるデザイン

歴史的な背景を感じさせる、また、現代的なデザインであること。

※ くらしと教育編(令和5年3月刊行予定)のデザインについては、通史編・資料編(令和4年3月刊行予定)と一体感を保ちつつ改めて検討します。

2 くらしと教育編カバーデザイン (案) (資料1-2、1-3参照)

くらしと教育編 各案に共通する考え方

(1) 内容を想起させるデザイン

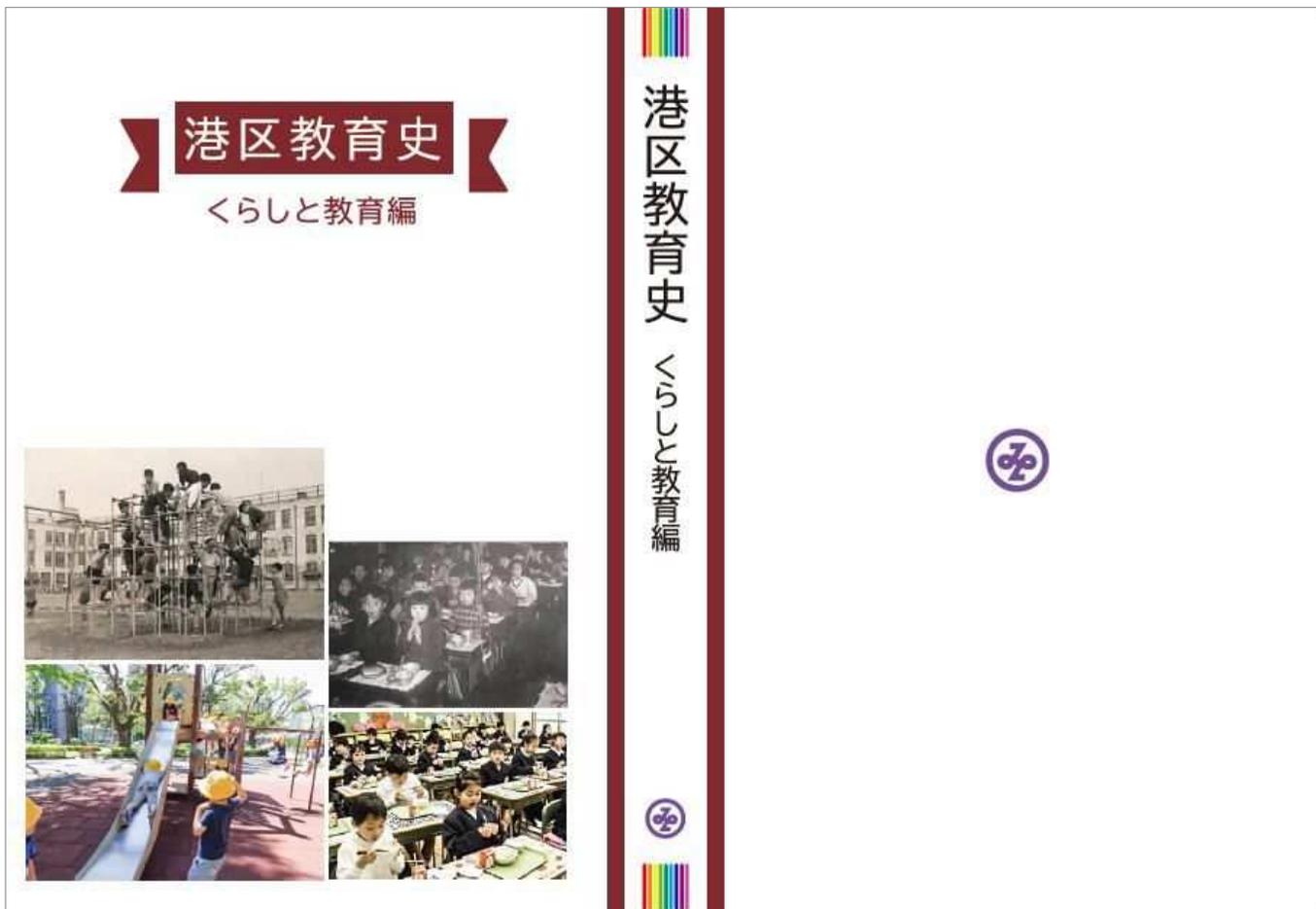
くらしと教育編のトピックスの一つである「給食」の昔と現代の写真を用いる。

(2) 通史編より親しみがあるデザイン

いきいきとした子どもたちの写真を用いる。

案	A	B	C
考え方	<ul style="list-style-type: none"> 昔の写真と現代の写真との対比で構成し、時代の変化を表現。 通史編との一体感を重視して配置。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との関係を象徴するものとして、児童と地域および学校との協力によって作られた「三光いろはガルタ」(昭和50年)を配置。 人物写真は円形に切り抜き、親しみやすさを強調。 	<ul style="list-style-type: none"> 未来へと続く子どもたちの元気な笑顔を重視し、現代の写真を多く選定。 人物写真は円形に切り抜き、自由に配置することで、親しみやすさをさらに強調。
配色	通史編・資料編で使用していない落ち着いた茶色を採用。	最終巻を締める意味で、港区のシンボルマークの江戸紫色を採用。	通史編第1巻に戻り、赤色を採用

※デザイン(案)で使用している写真は、編集過程で変更になる可能性があります。



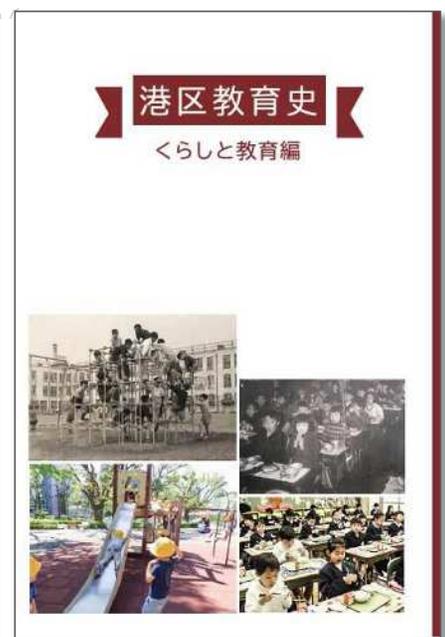
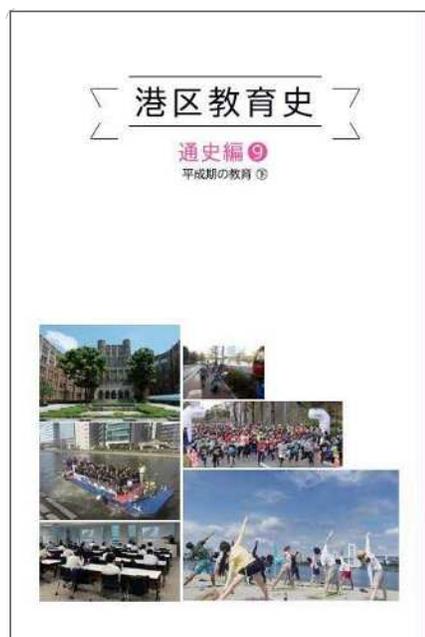
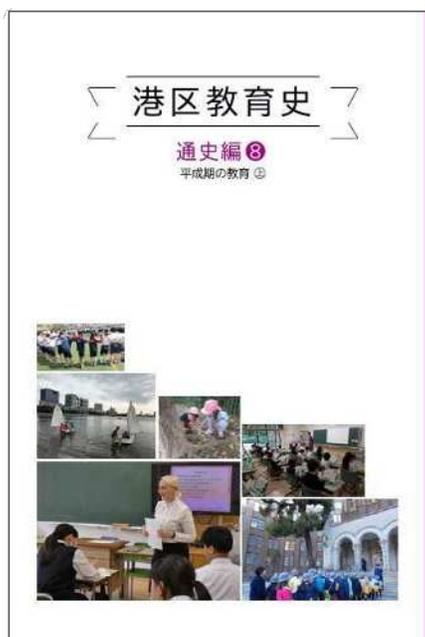
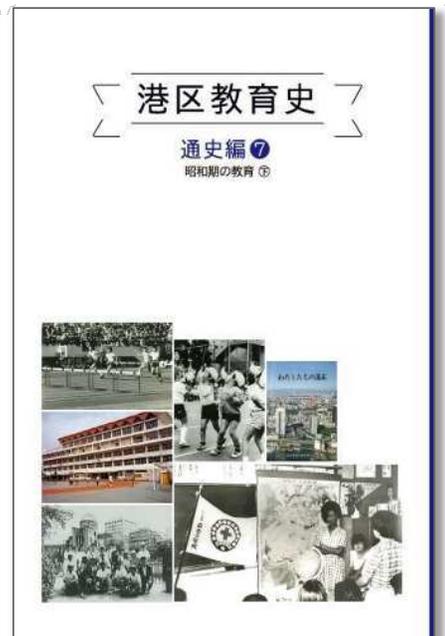
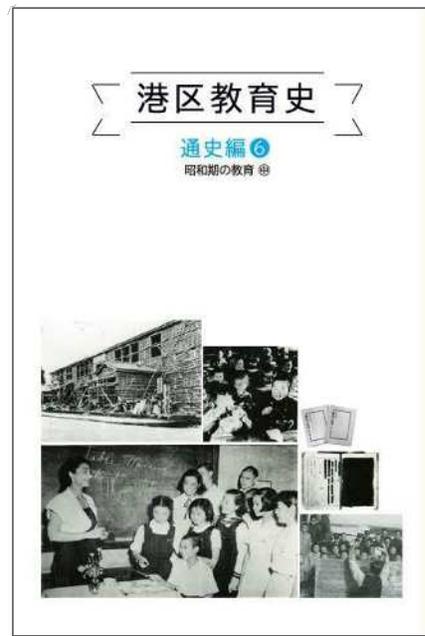
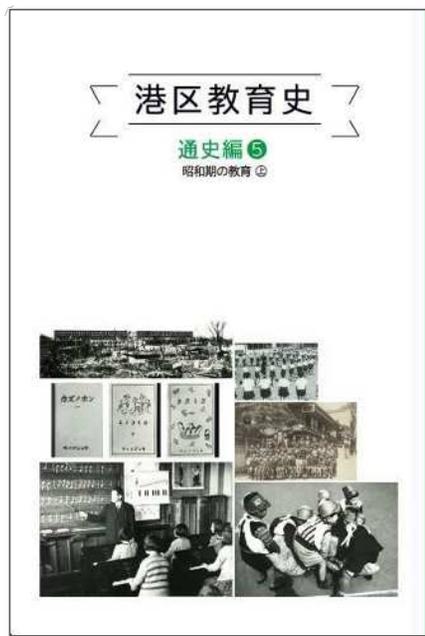
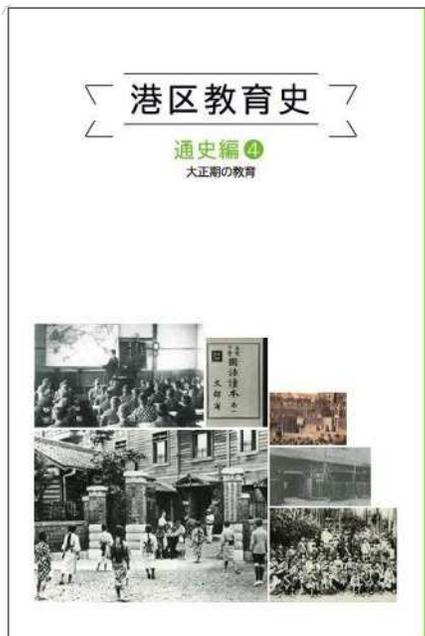
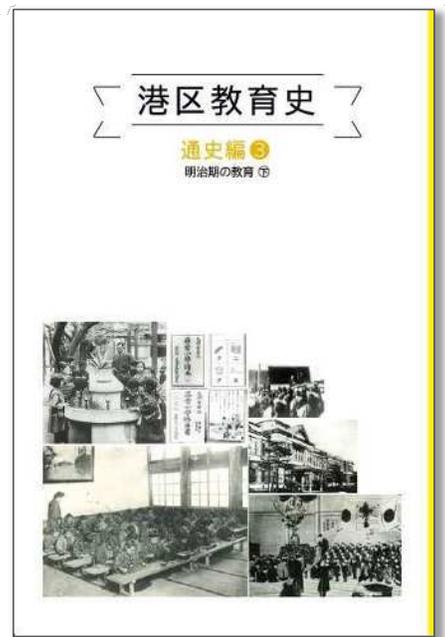
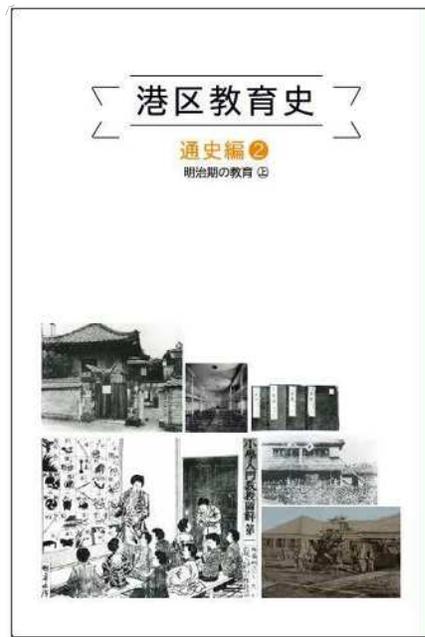
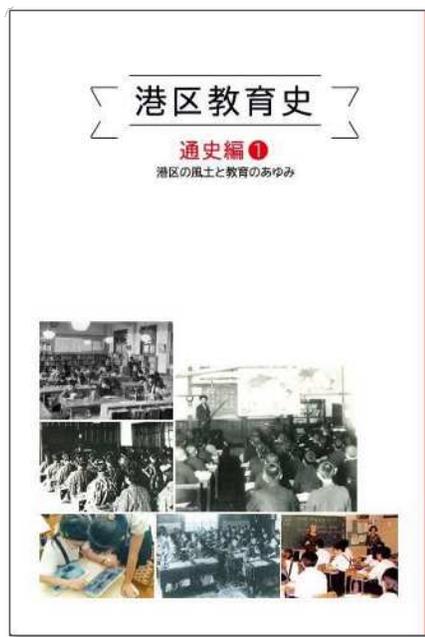
B案 カバー



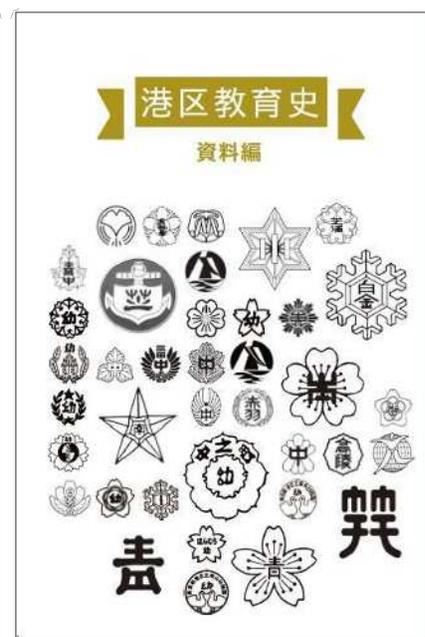
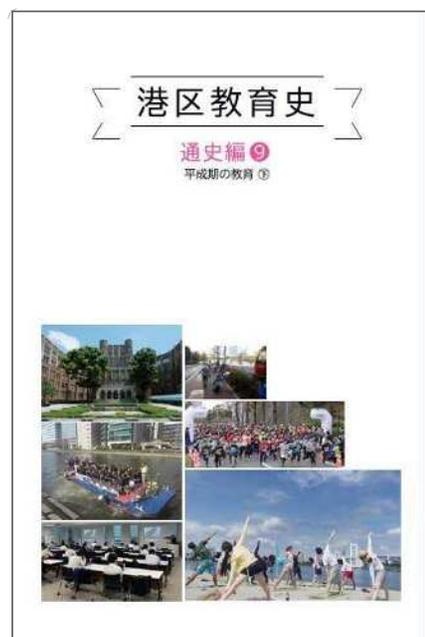
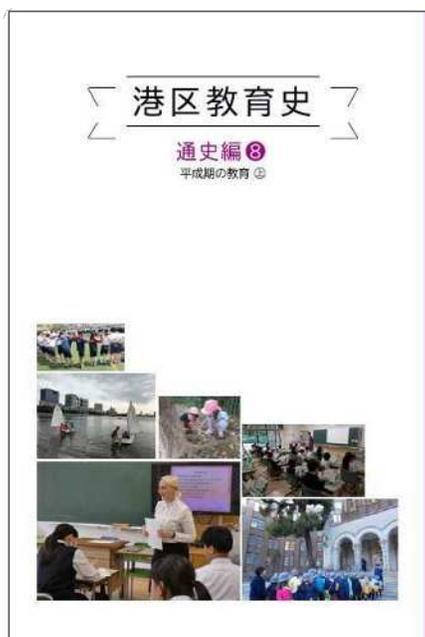
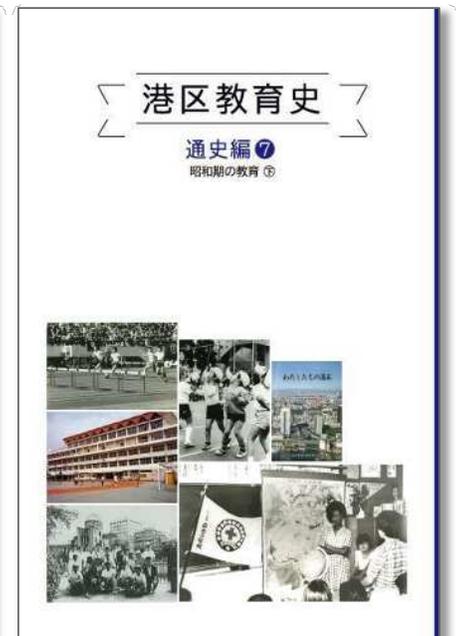
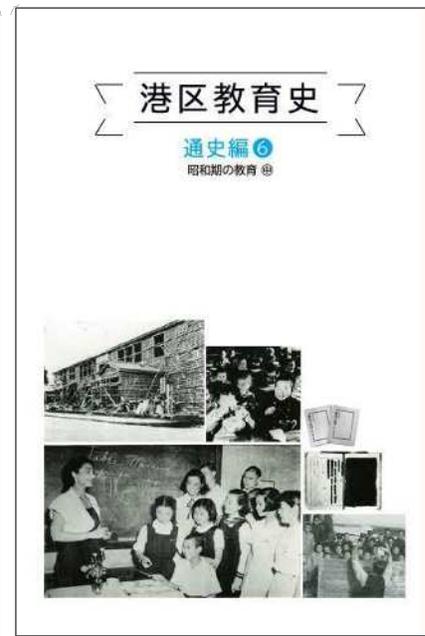
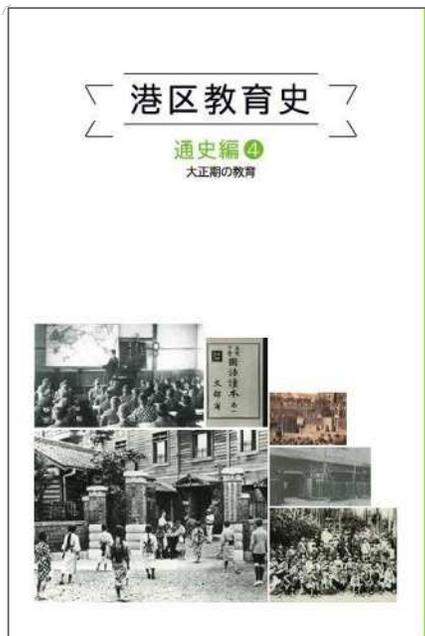
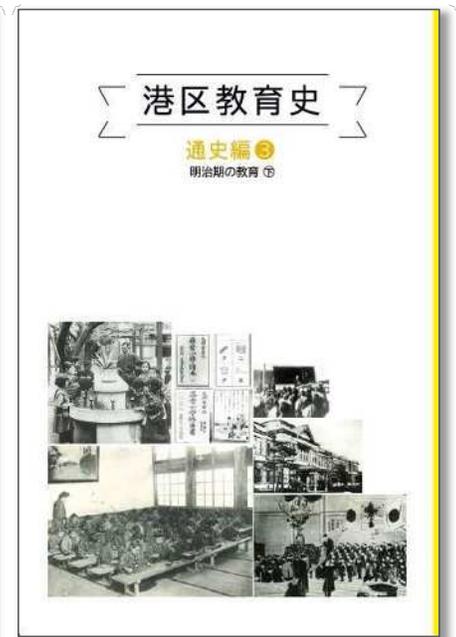
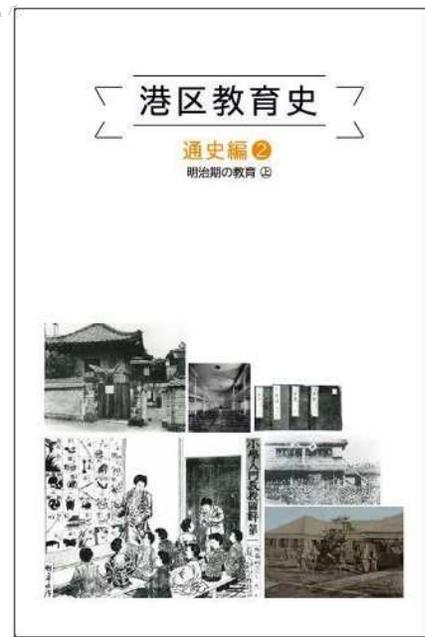
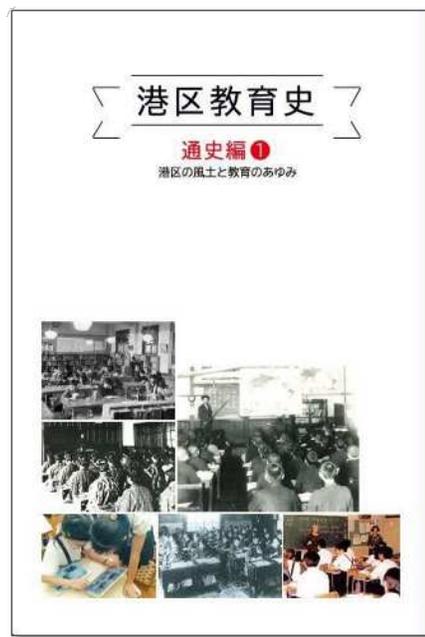
C案 カバー



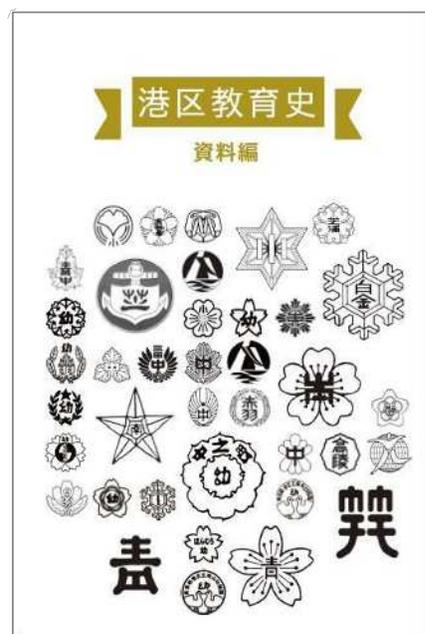
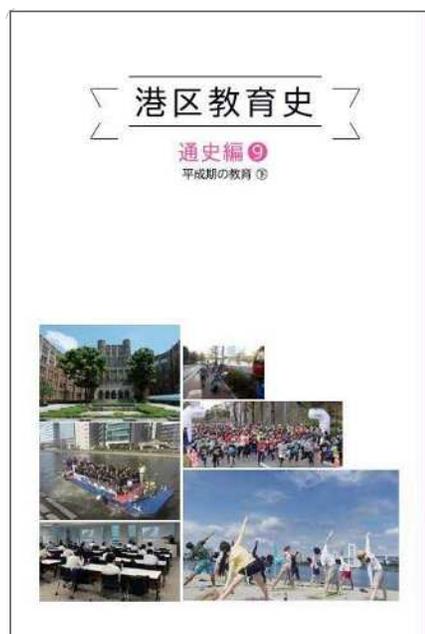
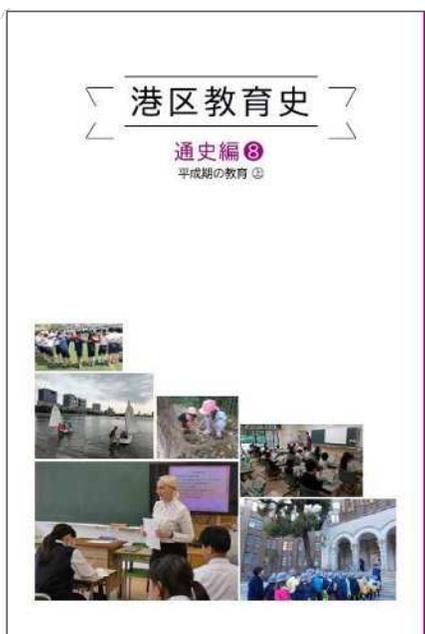
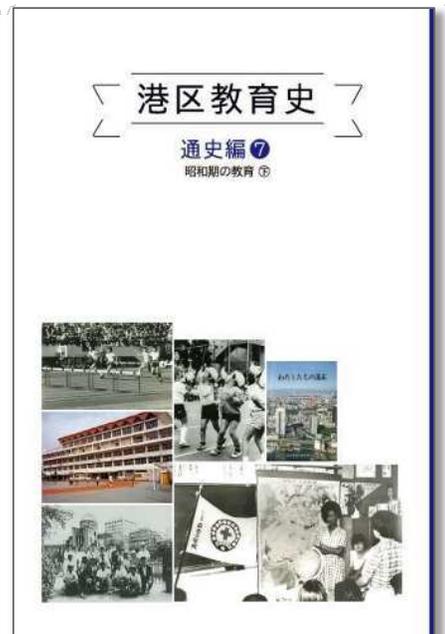
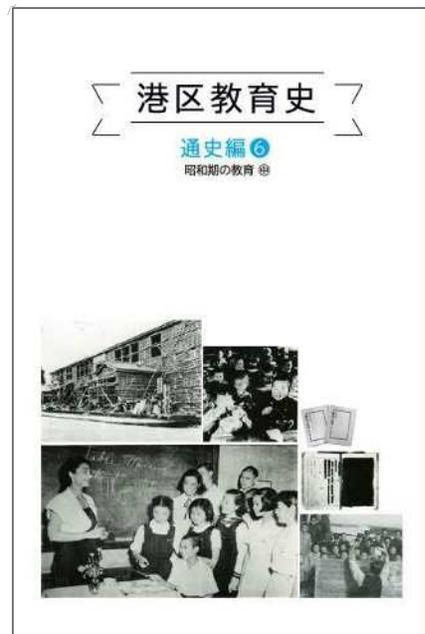
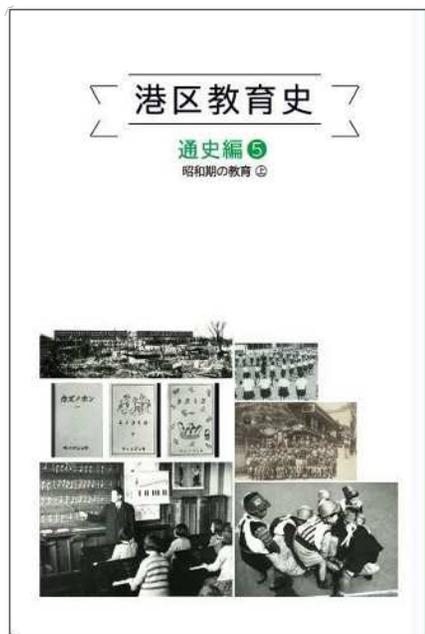
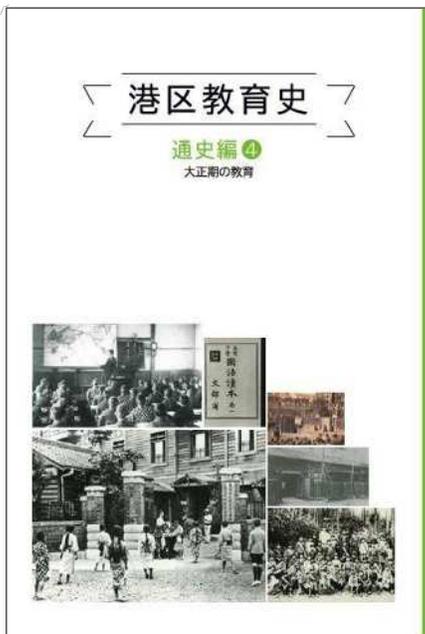
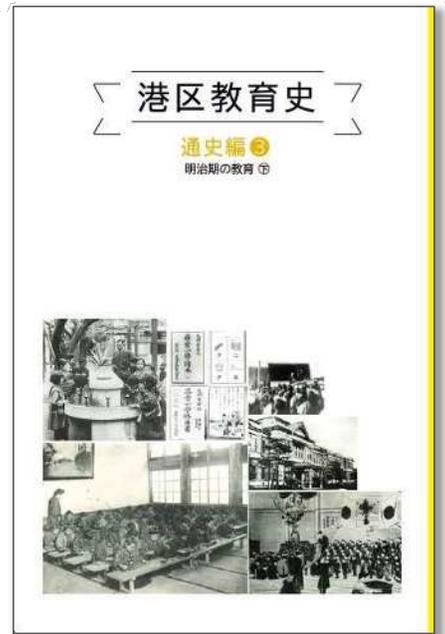
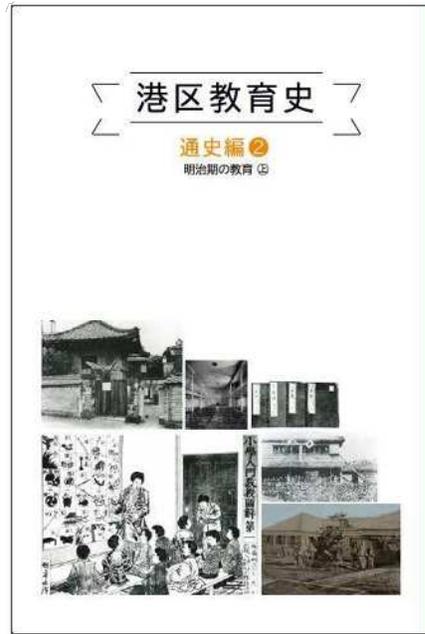
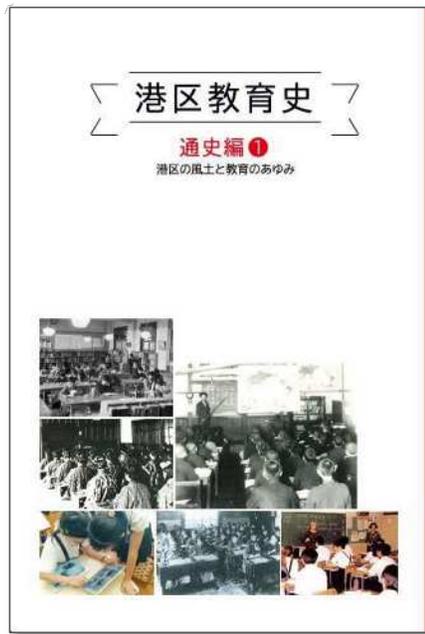
A案



B案



C案



令和 4 年 2 月 9 日 第 12 回(令和 3 年度 第 2 回)編さん委員会資料

「港区教育史」通史編・資料編の刊行について

1 概要

平成 28 年度から編さんを進めてきた「港区教育史」の内、通史編(全 9 巻)、資料編(全 1 巻)を刊行します。

巻	タイトル	頁数
第 1 巻	港区の風土と教育のあゆみ	250 頁
第 2 巻	明治期の教育 上	420 頁
第 3 巻	明治期の教育 下	373 頁
第 4 巻	大正期の教育	271 頁
第 5 巻	昭和期の教育 上	480 頁
第 6 巻	昭和期の教育 中	450 頁
第 7 巻	昭和期の教育 下	433 頁
第 8 巻	平成期の教育 上	440 頁
第 9 巻	平成期の教育 下	416 頁
第 10 巻	資料編	442 頁

2 刊行予定日

令和 4 年 3 月 1 日(火)

3 刊行部数(令和 3 年度第 1 回港区教育史編さん委員会決定)

380 部(配布・献本 322~332 部、販売・予備 58~48 部 ※巻により協力機関の数が異なるため)

4 販売価格(令和 3 年度第 1 回港区教育史編さん委員会決定)

各巻 3,500 円

5 販売場所

区政資料室(港区役所 3 階)、麻布地区総合支所、赤坂地区総合支所、高輪地区総合支所、芝浦港南地区総合支所、港区立郷土歴史館

6 周知方法

教育委員会「ひろば」1 月号、広報みなと 3 月 1 日号、区ホームページ、区 SNS(Twitter、LINE、Facebook)、デジタルサイネージ、区施設チラシ設置

7 インターネットでの公開

通史編・資料編をデジタル化し、Web サイト「デジタル港区教育史」で公開します。

「デジタル港区教育史」リニューアルについて

1 概要

区民の方々に港区の教育の歴史に親しみを持っていただくため、令和2年3月から公開しているWebサイト「デジタル港区教育史」では、既刊の港区教育史の他、編さん過程で発見された貴重な歴史資料や映像等を見ることができます。

令和4年3月1日刊行の「港区教育史」通史編・資料編を、「デジタル港区教育史」の新たなコンテンツとして追加し、本サイトをリニューアルします。

2 主なリニューアルポイント（令和3年度第1回港区教育史編さん委員会決定）（資料3-2参照）

(1)検索窓をトップページに配置

(2)「港区教育史」通史編・資料編を新規公開

(3)資料編は、以下の4つのカテゴリに分けて掲載

・年表

・図表および統計資料

刊本に掲載するもののほか、参考となる資料を追加掲載

グラフ等については、グラフとあわせて数値も掲載

・学校・教育関連施設

・文書

既刊の資料編に掲載されている文書に加え、通史編（平成期）の記述に関連する文書を掲載

(4)通史編と資料編を相互にリンク

※通史編・資料編を搭載した検証機によるデモンストレーション実施予定

3 リニューアル予定日

令和4年3月1日（火）

「デジタル港区教育史」リニューアル



更新 検索窓

興味のあるキーワードですぐに検索できるよう、検索窓をトップページに配置します。



新規公開

『港区教育史』 令和4年3月1日に刊行する『港区教育史』をデジタル化し公開します。

通史編 (第1～9巻)

キーワード検索が可能な〈テキスト形式〉と、刊本の版面がそのまま閲覧できる〈刊本形式〉の2つの形式で公開します。



資料編 (第10巻) ※詳細は裏面

年表/図表および統計資料/学校・教育関連施設/文書

くらしと教育編 (第11巻) ※令和5年3月公開予定

(編さん中のため、令和4年3月リニューアル時は開けません。)

公開中

見る・知る・伝える～港区教育アーカイブ～

区内の学校が保管してきた写真などの史料を取り上げ、港区の教育の歴史をトピックスごとに紹介します。



公開中

以下について、リニューアル後も引き続き公開します。

旧港区教育史
昭和62年刊行『港区教育史』上下巻、資料編一・二を〈刊本ビューア〉で閲覧できます。



広報ひろば
昭和55年第1号から現在までの広報ひろばを閲覧できます。今後も年度ごとに更新していきます。



港区の教育
昭和56年発行から現在までの港区の教育を閲覧できます。今後も年度ごとに更新していきます。



「港区教育史」刊行記念イベントの実施について

令和4年3月1日に、「港区教育史」通史編（全9巻）、資料編（全1巻）を刊行し、Webサイト「デジタル港区教育史」でも公開します。この刊行・公開を記念して下記の2つの刊行記念イベントを開催します。このイベントにより、「港区教育史」「デジタル港区教育史」の周知を図るとともに、その活用を推進します。

1 刊行記念講演会

目的：「港区教育史」通史編（全9巻）、資料編（全1巻）の刊行の周知を図るとともに、令和5年3月刊行予定の「くらしと教育編」のPRとする。

日時：令和4年3月20日（日）11：30～13：00

場所：港区立伝統文化交流館、ZOOMによるオンライン

対象：どなたでも

定員：会場参加（50名、港区在住・在勤・在学優先で抽選）

オンライン参加（人数制限なし、事前申し込み要）

講演：港区における地域社会の変容と学校

講師：小林 正泰（こばやし まさひろ）先生

（共立女子大学家政学部児童学科准教授、くらしと教育編執筆・監修者）

2 教員向けワークショップ

目的：「デジタル港区教育史」の周知を図るとともに、その活用を推進する。

日時：令和4年3月5日（土）13：30～16：30

場所：Zoomによるオンライン

対象：教材化枠：港区の公・私立（小学校～高等学校）の教員・学校司書、
図書館員、港区立郷土歴史館員

視聴枠：どなたでも

定員：教材化枠（15～20名程度）、視聴枠（人数制限なし）、事前申し込み要

タイトル：港区のデジタルアーカイブ資料を活用した「教材化」ワークシ

ョップ ～ICTと地域の資料を楽しく使いこなして、児童生徒がワクワクする面白い教材を一緒に作りませんか？～

ファシリテーター：大井 将生（おおい まさお）

（東京大学大学院学際情報学府、TRC-ADEAC 特任研究員）

港区における 地域社会の変容と学校

港区の地における150年を超える教育のあゆみを体系的に記録し、分かりやすく親しみやすい、後世に語り継いでいける港区教育史を編さんしています。この刊行を記念して講演会を開催いたします。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

3/20日

11時30分開演



講演内容

明治維新以降、港区域は産業革命や関東大震災、戦時中の空襲、高度経済成長など、激動の歴史をたどってきました。そうした地域社会の変容にともなって、学校教育のあり方も様々な変化を遂げています。今回の講演では地域社会と学校の間を、教育史編さん過程で見つかった貴重な歴史資料を紹介しながら解説します。

講師：小林 正泰 先生

共立女子大学家政学部児童学科准教授。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。東京学芸大学教育学部特任講師などを経て現職。主要著書に『関東大震災と「復興小学校」』(勤草書房2012年)など。



港区立伝統文化交流館にて参加費無料

日時	3月20日(日)11時30分開演 (11時開場、13時終了予定)
会場	港区立伝統文化交流館 JR「田町」駅東口 徒歩8分 / 都営地下鉄「三田」駅 徒歩9分
対象	どなたでも
定員	会場参加 50名(港区在住・在勤・在学優先で抽選) / オンライン参加 ※事前申込要
申し込み	会場参加:1月17日(月)~3月8日(火) みなとコール 03-5472-3710 へ。 (受付時間:午前9時(初日は午後2時)~午後5時) 港区ホームページの申し込みフォームからも申し込みめます。 抽選結果は、3月10日(木)以降にハガキでお知らせします。

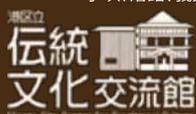


第2回 伝統文化フェスティバル

今年もやって来りました!!笑顔になれる3日間
~落語、講談、マジック、漫才にコンサート等々~
日本の伝統文化や芸能を存分に味わえる夢のイベント!

【内容】

3/19(土) 伝統文化交流館活動団体発表会
3/20(日)・21(月/祝)
浪曲、沖繩伝統舞踊、日舞、講談、紙切、二胡/ギター、漫才、尺八、
小唄、落語、義太夫節、和妻など



お問い合わせ:03(3455)8451

*詳細はKissポート2・3月号をご覧ください。

オンライン参加:1月17日(月)~3月15日(火)

港区ホームページの申し込みフォームへ。

お問い合わせ

〒105-8511 東京都港区芝公園1丁目5番25号
港区教育委員会事務局教育推進部教育長室教育史編さん担当
TEL 03-3578-2829 FAX 03-3578-2759



港区教育史

港区の地における150年を超える教育のあゆみを体系的に記録し、分かりやすく親しみやすい、後世に語り継いでいける港区教育史を編さんしています。

EDUCATION HISTORY OF MINATO CITY

第1巻～第7巻

昭和62年に刊行した『港区教育史』(上・下巻)に、注釈とコラムを追加しています。



- 第1巻 港区の風土と教育のあゆみ
- 第2巻・第3巻 明治期の教育
- 第4巻 大正期の教育
- 第5巻～第7巻 昭和期の教育

第8巻・第9巻

平成期の教育史を対象として、テーマ別に新規に執筆しています。



- 第8巻 概説/幼児教育の再編/小学校教育の再編/中学校教育の再編/特別支援教育の展開
- 第9巻 諸学校の状況/教職員の状況/教育行政の改革/生涯学習の推進

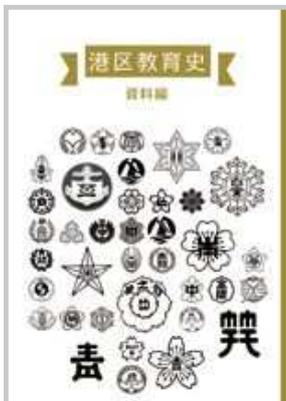
書籍タイプのものをお買い求めいただけます。

販売場所

- 港区役所3階区政資料室
- 麻布地区総合支所
- 赤坂地区総合支所
- 高輪地区総合支所
- 芝浦港南地区総合支所
- 港区立郷土歴史館

価格 各巻3,500円

第10巻 資料編



昭和62年に刊行された『港区教育史』(下巻)と平成9年に刊行された『港区教育史』(資料編2)の内容を受け継ぎ、平成8年以降の事項を追加しています。

- ▶明治元年から令和2年度までの教育史年表
- ▶地域特性と変遷がわかる図表および統計資料
- ▶学校教育関連施設

区立幼稚園・小学校・中学校の沿革と現況 ほか

第11巻 暮らしと教育編 (令和5年3月刊行予定)

子どもの生活と教育・区民の生活との関係や地域と学校との関わりなど、行政の文書から読み取れない学校の史資料を基に、全14テーマを掲載します。

インターネットで だれでも・どこにいても
港区教育史と関連資料を閲覧できます！

デジタル港区教育史



<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Usr/1310305200/>



港区の デジタル

『港区教育史』

刊行記念イベント

小学校・中学校・高校の

先生のための

アットホームで楽しい

ワークショップ

アーカイブ

ICTと地域の資料を
楽しく使いこなして、
児童生徒が
ワクワクする
面白い教材を
一緒に作りませんか？

資料を

活用した

「教材化」

ワークショップ

2022年3月5日（土）

13:30～16:30 / オンライン開催 / 参加費無料



エリア別にみる

BROWSE PHOTOS BY AREA



戦争・学童疎開



イベント・事件



保健・衛生

港区のデジタル
アーカイブは、
子どもたちの
ワクワクを引き
出す原石で溢れ
ていることを
ご存じですか？

主催：港区教育委員会
 日時：2022年3月5日 土曜日 13:30-16:30
 内容：港区アーカイブの概要説明後、
 「教材化」ワークショップ オンライン開催
 講師：大井将生 (東京大学 大学院 学際情報学府 / TRC-ADEAC 特任研究員)
 対象と定員：
 1) 教材化枠；港区の公立・私立の小・中・高の教員、
 学校司書、図書館員、郷土歴史館員；
 [定員]15~20名。応募多数の場合は抽選。
 抽選にもれた場合は視聴枠での参加可。
 2) 視聴枠；どなたでも参加可。人数制限なし。
 申込：以下4点を記入して下記教育長室までメール
 ①氏名、②所属(学校名または施設名)、
 ③希望枠(教材化枠/視聴枠)、④メールアドレス
 申込〆切：1)教材化枠；2月21日(月)まで
 2)視聴枠；2月28日(月)まで
 問い合わせ・申込先：教育長室教育史編さん担当；
minato07@city.minato.tokyo.jp

○港区教育史編さん委員会設置要綱

平成28年12月20日

28港教庶第2990号

(設置)

第1条 港区教育史の編さんを円滑に推進するため、港区教育史編さん委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 港区教育史の編さん方針に関すること。
- (2) 港区教育史の編集計画に関すること
- (3) 港区教育史の構成及び内容に関すること。
- (4) 港区教育史編さんの推進に関すること。
- (5) その他港区教育史編さんに関し、教育長が必要と認める事項。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者で教育長が委嘱し、又は任命する委員11人以内をもって組織する。

- (1) 学識経験者 2人以内
- (2) 区関係団体から推薦を受けた者 3人以内
- (3) 区職員 3人以内
- (4) 校園長 3人以内

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から教育史編さんが終了する日の属する年度の末日までとする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補充した者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員のうちから委員の互選により選出し、会務を統括する。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名し、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して委員会への出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会事務局教育推進部教育長室において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

付 則

この要綱は、平成29年1月10日から施行する。

付 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

参考資料2

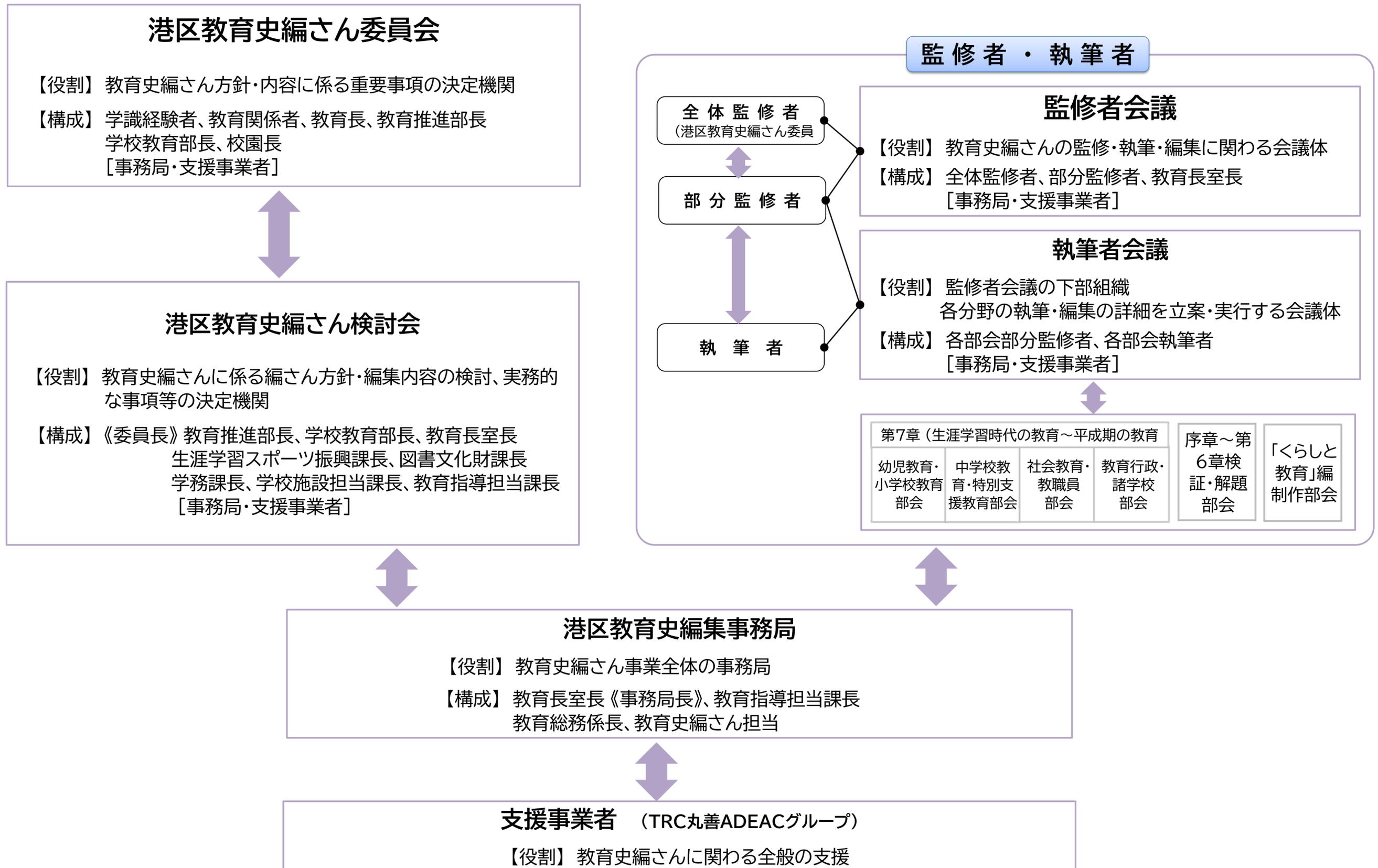
令和4年2月9日第12回(令和3年度 第2回)教育史編さん委員会資料

港区教育史編さん委員会 委員名簿

(令和4年1月1日現在)

	氏 名	所 属 ・ 役 職 等
学識経験者	こくに よしひろ 小国 喜弘	東京大学 大学院教育学研究科教授
学識経験者	あさい きちこ 浅井 幸子	東京大学 大学院教育学研究科教授
区関係団体推薦	いでの やすまさ 出野 泰正	港区中学校PTA連合会 元会長
区関係団体推薦	こんの ゆりこ 今野 由理子	港区スポーツ推進委員協議会 前会長
区関係団体推薦	ほしの とむひと 星野 智仁	港区青少年委員
区職員	うらた みきお 浦田 幹男	港区教育長
区職員	ほしかわ くにあき 星川 邦昭	教育委員会事務局 教育推進部長
区職員	ゆかわ やすお 湯川 康生	教育委員会事務局 学校教育部長
校長	けんもつ としゆき 鋸持 利行	高松中学校 校長
校長	みやぎき なおと 宮崎 直人	赤羽小学校 校長
園長	はらだ けいこ 原田 恵子	芝浦幼稚園 園長

港区教育史編さん体制図 (案)



港区教育史編さん基本方針

港区教育委員会は、平成29年3月15日に区政70周年を迎えるのを機に、昭和62年の「港区教育史」(上・下巻)、平成9年の「港区教育史」(資料編1、2)の刊行から経過した港区教育史を、以下の方針に基づき新たに編さんします。

1 基本方針

- (1) 江戸時代後期から始まる「寺子屋」以降、この港区の地における150年を超える教育の歩みを体系的に記録し、後世に語り継いでいける教育史とします。
- (2) 歴史的事実、学術的研究を基に、教育史の編さんを行います。
- (3) 図表や写真等を多く用い、分かりやすく親しみやすい、区民が身近に感じられる教育史とします。
- (4) 区民との協働で編さんを行うことにより、愛着が持てる教育史とします。
- (5) ICT(情報通信技術)を活用することにより、国内外に広く港区の魅力を発信します。
- (6) 収集した資料及び今後新たな研究・検証に基づく資料は継続的に収集を行い、管理・保管して後世に残すとともに、定期的に検証します。
- (7) 子どもや保護者、地域の方々の視点で「くらしと教育編(仮称)」を新たに編さんし、広く区民に手に取ってもらうためのわかりやすい教育史とします。

2 編さん期間

平成28年度から平成34年度まで

3 公開・刊行年月

平成32年3月予定 資料でみる普及版

平成33年3月予定 港区教育史 通史編・資料編

平成35年3月予定 港区教育史 くらしと教育編

4 成果物

- (1) 港区教育史(WE B版・書籍版)
 - ①通史編
 - ②資料編
 - ③くらしと教育編
- (2) 資料でみる普及版(WE B版)

港区教育史の構成について

スケジュールの見直しを受け、成果物は下記のとおりとなりました。

1 港区教育史：『(仮称)新・港区教育史』(WEB版・書籍版<A5>)

(1) 通史編

刊行年月：平成32年度まで(平成33年3月)

- ・旧教育史の第1章～第6章を最大限生かし、新規執筆ではなく検証の上、解題を付す。第7章は、昭和60年頃から平成期にわたる生涯学習時代の港区の教育の歴史を新たに執筆する。

(2) 資料編

刊行年月：平成32年度まで(平成33年3月)

- ・港区の教育に関する統計資料や各種データ等を取りまとめ、掲載する。

(3) くらしと教育編

刊行年月：平成34年度まで(平成35年3月)

- ・調査を通じて新たに確認された史実に基づき、広く区民に手に取ってもらえる港区の教育史を主題別に新規執筆する。
- ・子どもや保護者、地域の方々の視点から再確認できるような内容とする。

2 資料でみる普及版：『(仮称)資料でみる港区の教育』(WEB版)

公開年月：平成31年度まで(平成32年3月)

- ・港区の教育の歴史を写真・図表などの資料を中心に視覚的に紹介する。
- ・区民が身近に感じられる、分かりやすく親しみやすい内容とする。
- ・ICT等を用いた授業の教材としても活用できる内容とする。
- ・港区の教育に関する歴史資料をデジタル化してWEBに搭載し、区民が資料を通じて港区の教育の歩みについて学び、調べることができる環境を構築する。
- ・WEB版の特性を活かし、継続的に更新可能なしくみとする。

※下線部が変更箇所です。

